

I 1

特集

整形外科での器械出し -シミュレーションとコツ-

I 整形外科手術 - 器械出しの基本

身につけたい 基本動作と心構え



金森昌彦¹⁾, 澤田浩美²⁾, 矢野正晃³⁾

1) 富山大学医学部看護学科・人間科学講座 教授

2) 富山大学附属病院手術部 看護師

3) 富山県立中央病院手術部 看護師

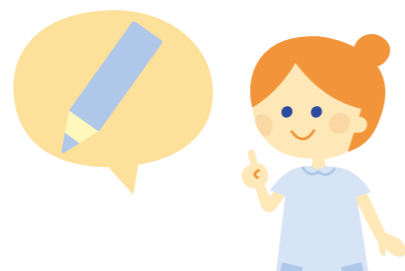
POINT

- ▶ 新人看護師は基本器械の用途と安全な取り扱いをマスターしましょう。そのためのシミュレーションを繰り返して手術に臨みましょう。
- ▶ 中級レベルの看護師は手術ごとの特殊な手術器械と借り物器械についてマスターしましょう。基本用途と手順さえ理解すれば、もっとベテランになることができます。
- ▶ 熟練看護師は手術進行の1歩先を読むコツを体得して、術野の新たな展開に備えます。さらに手術室の全体状況を把握する能力も磨きましょう。

はじめに

手術の進行に大きくかわるのは術者、手術助手、麻酔科の医師、そして看護師です。手術器械が清潔にかつ安全にその場面に準備されるには、これらの医療者の他にも臨床工学士や器材の搬入、滅菌、清掃をする人たちも含めて多くのコメディカルが関与しますが、その手術器械を最後に術野に差し出すのは器械出しの看護師の仕事です。この行為には「器械を術者に渡す」という動作だけでなく、「患者さんの治療のために役立たせる」という願いも込めているはずですね。その結果、術者との暗黙のコミュニケーションによる連携が成立し、チームワークとしての先を読む医療行為につながっていかねばなりません。いつまでたっても「医師に指示されて

から、器械を探して、それから渡しさえすればよい」という姿では手術看護のプロになることはできません。本章では、整形外科手術における基本的な手術器械の取り扱い方をマスターするとともに、外回り看護師の役割や病棟への申し送りにおける基本事項について説明します。



手術前の準備

器械出しのシミュレーション

まず、1つ1つの基本的な手術器械の取り扱い方をマスターしましょう。とくに針や刃のついている切れる器械の渡し方が大切です。これらの器械を手

渡すときは、医療者と患者さんの皮膚を傷つけないように、とくに配慮して丁寧な声掛けとともに渡すのがよい方法です（図1～図4）。

また小さな器具を渡す場合、手でつまむと落としやすいものは手のひらにのせたほうが安全に渡すこ

A 良い例



B 悪い例



図1 持針器の渡し方

「3-0角針です。」などと、糸の太さと針のサイズを再確認し、声掛けて渡すのがよい方法です。術者は術野を見ていて針を見ずに受け取ることがあるため、針刺し事故にはとくに注意しましょう。針を術者に向けるのは当然ながら危険です。

A 良い例



B 悪い例



図2 メスの渡し方

「#15番です。」などと、メスの形状を呼称して渡すのがよい方法です。メス刃は下向きにして、医療者がメス刃による怪我を生じないようにします。